

情報科学習指導案

指導者 T 1 山根 僚介

T 2 松山 由香利

情報助手 田坂 元紀

1. 日 時 平成15年12月9日

2. 学 年 第1学年2組

3. 題材名 なかよしだいさくせん

4. 題材について

(1) 題材観

本題材は、学級に届いたビデオレターへ返事をつくっていかうとする活動を通して、コミュニケーション能力を育むことをねらいとする。現代の社会ではコミュニケーションの手段として、旧来の会話、手紙、電話などに加え、ビデオ、FAX、Internet、E-mail、TV会議、携帯電話、Movie(動画)、Etc.と実に多くの方法が登場してきている。現代社会を生きていく上で、これらを全く知らないことはかなりの不便を伴うと思われる。よって、学校教育でも発達段階に応じて、「その手段のよさ」と「スキル」を指導していくことが必要であると考え。

本題材では手紙とビデオを扱う。手紙は「文字として読める」「機器が必要ない」「簡単に繰り返し読める」などのよさがあり、ビデオは、「音声で記録できる」「表情を伝えられる」などのよさがある。これらのよさを生かして、相手のことを考えて、自分の心を伝える力を育みたい。

(2) 児童観

本学級の児童はこれまでに、先生に対して自己紹介をしたり、敬老会で地域のお年寄りに手紙を書いたりしてきている。しかし、これらの活動は多くが一方向的なものであり、コミュニケーションの送受信が両方成り立つような活動は少なかった。つまり、そこからは、自分から相手に心を発信していかうとする姿勢がまだ十分に身に付いていないといえる。

手紙については、多くの児童が暑中見舞いなど、手紙を書いたことがある。しかし、手紙の書き方についての具体的な指導はまだ受けておらず、自分の言いたいことを十分に表現できているとはいえない。また、ビデオについては、能動的にビデオレターを作成したことのある児童はおらず、初めてふれることになる。

(3) 指導観

コミュニケーションの成立する要件は、コミュニケーション意欲とコミュニケーション実践力の両立であると考えられる。そこで指導にあたっては、まず積極的にコミュニケーションの送受信をしたくなるような場を設定したい。具体的には、1学期末に本学級より転出したTさんに協力を願い、ビデオレターを送ってもらうことにする。(授業者が撮影する。)第1次でそのビデオレターを見ることにより、児童に自然と返事を出したいという意欲を持たせたい。次に、第2次では手紙に必要な事項や字を丁寧に書くことを指導したり、ビデオに映って話すときの目線や声量を1年生の発達段階をふまえて指導したい。本次では学級を手紙グループとビデオグループに分け、少人数指導体制を採る。そこで少人数のよさを生かしてきめ細かい指導をしたい。その後、第3次でお互いのグループの作品(つくった返事)を交流することを通して、どちらの方法もコミュニケーションの手段として有効であることを理解させたい。

またこれらは、授業の中だけで終わってしまってよい内容ではなく、日常生活に繰り返し生かされてこそ、コミュニケーション能力がついたといえる。本題材では最終的にTさんへ手紙やビデオレターで返事を出すことになるが、この後、Tさんからの返事、さらに本学級児童からの返事と自然にコミュニケーションが続いていくことを期待したい。

5. 題材の目標

- 返事をつくることを通して、自分の考えや思いを伝えることができる。
- 手紙やビデオによるよさがわかり、自分の選んだ手段(手紙かビデオ)で表現することができる。
- 手紙を書く上での書き方や、ビデオでの目線・声量などがわかる。

6. 評価規準

情報への関心・意欲・態度	情報活用の実践力	情報活用についての理解
積極的に返事をつくろうとする。 返事の相手のことを意識して活動する。	伝えたいことを文や絵で手紙に表すことができる。(手紙) 伝えたいことを目線や声量に気をつけて言うことができる。(ビデオ)	手紙・レターの往復によって、お互いの心を伝え合うことができることを理解する。 手紙の書き方や、ビデオへの話し方がわかる。

7. 指導計画（全4時間）

次	学習内容 (時数)	評 価			
		関	実	理	評価方法
1	Tさんからビデオレターが届いたよ！(1)			○	・ 返事を出す方法と、内容を考える。 行動観察
2	Tさんへ返事をつくろう。(2) 本時 手紙グループ[1 / 2] ビデオグループ[2 / 2]	○		○	・ 意欲的に返事をつくろうと活動する。 ・ 自分の伝えたいことを決めることができる。 ・ 挨拶や、伝えたいことを手紙に書くことができる。(手紙) ・ 目線や声量に気をつけてビデオに向かって話すことができる。(ビデオ) 行動観察 行動観察 作品 作品
3	Tさんへ返事を出そう。(1)				・ 違うグループの作品を見て、どちらの方法でも自分たちの心がTさんへ届くことがわかる。 行動観察

8. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 返事をつくることを通して、相手を意識したコミュニケーション(送信)ができる。

(2) 観点別評価規準

情報への関心・意欲・態度

意欲的に返事をつくろうと活動する。

情報活用の実践力

挨拶や、伝えたいことを手紙に書くことができる。(手紙)

目線や声量に気をつけてビデオに向かって話すことができる。(ビデオ)

- 情報活用を理解

(3) 準備物

手紙用シート(手紙)、ビデオ2台、モニター(ビデオ)

(4) 学習の展開 手紙グループ(T 1)

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 / 2 (本時)			
1 本時の学習課題をつかむ。 Tさんへのてがみをかこう。	・手紙で心が伝わりあったエピソードを紹介する。	・意欲的に話を聴いている。	行動観察
2 手紙の書き方	・自分の思いを伝えるためには、正しい手紙の書き方が必要であることを指導する。 ・あいさつ・ビデオのお礼 ・本文・日付・自分の名前	・決められた事項を手紙に盛り込んで書けている。	手紙(事後)
3 手紙の内容を考える。 ・Tさんに伝えたいことにはどんなことがあるでしょうか。	・本文に書く事柄を考え、発表させる。 ・その中から、自分が書きたいことを選択させる。	・意欲的に考え、発表している。	発表 行動観察
4 手紙を書く。 手紙の書き方に気を付けて、Tさんに気持ちが伝わるように書きましょう。	・レイアウトした便箋を用意し、手紙を書かせる。	・自分の伝えたいことが書けている。	行動観察 手紙
5 ふりかえる。	・感想を発表させる。 ・次時で続きを書くことを伝える。		
2 / 2			
1 手紙の続き書く。	・前時の続きを書かせる。	・自分の伝えたいことが書けている。	行動観察 手紙
2 交流する。 友達の手紙の良かったところを発表しましょう。	・書いた手紙をグループ内で交流し、友達が伝えようとしている事を読み取らせる。 ・手紙の書き方を押さえていたり、Tさんを意識した書き方ができているかを確認する。	・友達の手紙からよさを見つけている。	行動観察 発表
3 ふりかえる。	・感想を発表させる。 ・次時でビデオグループのビデオレターを見ることを伝える。		

(4) 学習の展開 ビデオグループ(T 2・情報助手)

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 / 2			
1 本時の学習課題をつかむ。 Tさんへへんじのビデオレターをつくろう。			
2 ビデオの撮り方	・ Tさんがビデオレターを撮っている時のメイキングビデオを用意し、自分たちがビデオに向かって話す時の注意点がわかるようにする。		行動観察
3 ビデオの内容を考える。 ・ Tさんに伝えたいことにはどんなことがあるでしょうか。	・ 1グループの中で同じ事を言わないようにすることを前提とし、何について話すのかを話し合って決める。	・ 意欲的に考え、話し合っている。	行動観察
4 ビデオを撮る練習をする。	・ カメラを見ること(目線)、はっきり大きな声で話すこと(声量)を指導し、グループ内で練習をさせる。(一人一分)	・ 意欲的に練習している。 ・ 目線や声量に気を付けている。	行動観察
5 ふりかえる。	・ 感想を発表させる。 ・ 次時でビデオを撮ることを伝える。		
2 / 2 (本時)			
1 注意点を再確認する。	・ 目線と声量に気を付けて話すことを確認する。		
2 ビデオレターを撮る。	・ 1グループにカメラ1台を配置し、T 2と情報助手で撮影をする。	・ 目線や声量に気を付けてビデオに向かって話すことができる。	行動観察 目線 声量
3 撮ったビデオを見る。 今撮ったビデオを見て、良いところと直すところを考えよう。	・ すぐに見て、良かった点や直した方がよい点を話し合う。		行動観察
4 撮り直しをする。	・ 見直したことを生かし、その点に気を付けて取り直すよう助言する。	・ 見直した点について改善したり工夫したりすることができる。	行動観察
5 ふりかえる。	・ 感想を発表させる。 ・ 次時で手紙グループの返事を見ることを伝える。		